第１回　伊勢崎市部活動動地域展開検討委員会　議事録

令和８年７月３０日（木）
絆の郷　第６市民活動室

期　日　令和８年７月３０日（木）１４：００～１５：３０
会　場　絆の郷市民交流館第６市民活動室
出席者：菅谷美紗都委員、矢島貢委員、武井義夫委員、平林知巳委員、武淵瑠太委員、
諏佐浩一委員、山田千広委員、三木俊幸委員、前原文哉委員、橋憲市委員、
吉田啓祐委員
欠席者：井野貴文委員

１　開会

２　委嘱状交付

３　あいさつ（三好教育長）
・過去３年、様々なご意見をいただきながら本市の学校規模や地域特性、生徒や保護者、教職員の考え等、伊勢崎市の実情に応じた部活動地域展開の形を模索してきたことに感謝申し上げます。
・本県では令和１０年度末に土日の部活動について、９０％を地域展開に任せることが発表され、いよいよ具体的な実行性のある運営を行っていかなければならないと考えております。
・本市においても、指導者の人材・育成、他にも様々な配慮が必要であること等、課題はありますが、子供たちにとって、最善となる仕組みづくりを実現していきたいと考えております。
・「子供たちが生涯にわたってスポーツに親しんでいくこと」「部活動動で培ってきたものを大切にしていけるよう」に支援体制を構築していきたいと考えております。
・本日も様々な視点からご意見をいただけるようお願いいたします。

４　報告（事務局）
・今年度は、１０競技１２クラブが活動しており、３０部活動動が参加している。休日の地域クラブを月１回以上実施している割合は１４．７％であり、県が部活動動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する取組方針の中の示している数値の半分である。
・本年度の運動部の設置数は２００であり、入部率は男女で５８．９％である。
・令和８年度から令和１４年度の中学校別生徒数推移は、緩やかな減少傾向となっている。
・指導者の確保の面では、伊勢崎市中学校「部活動動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストを始めたところであり、現在の登録状況は１２名である。また、育成面では、８月２９日に部活動動地域展開をテーマに、ジュニアスポーツ指導者研修会を開催する予定である。
・県の動向としては、５月に「部活動動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する取組方針」を公表した。主な内容は、取組方針に「令和１０年末までに、原則すべての学校部活動動で休日の地域展開を実現することを目指す」と明記したこと。改革・推進を進めるための

ロードマップに地域展開の実施状況が示されたことである。

5　協議

（結城コーディネーター）

・伊勢崎市部活動動地域展開構想について、事務局から提案いただく。

（事務局）

・部活動動は単なる課外活動ではなく、「生徒の居場所」、「保護者の安心・信頼」、「教員の多面的な生徒理解」という3つの大きな価値を担ってきた。
・今回の地域展開は、単に「教員の負担が大きいから減らす」というマイナスな発想からではなく、本質は、子どもたちの主体性を育てるために未来へ「前進」することにある。教員や特定の誰かだけに負担を強いるのではなく、学校と地域社会が一体となって、すべての子どもが自分の目的やペースに合わせて成長できる「新しいステージ」を創り上げていきたい。
・今回の改革の本質は、「全員一律」から「自分で選ぶ自立型活動」へのシフトである。生徒が放課後に求めるニーズは多様化している。伊勢崎市では、現在の学習指導要領が目指す「自立した学習者」を育てるため、目的に合わせて選べる「4つの活動コース」を用意する。
・具体的には、生徒が自分の意思で４つのコースから選択できるようにしていく。１つ目は、平日も休日も活動し、競技力の追求を目指すチャレンジ型。２つ目は、平日のみ活動し、スポーツや文化活動を楽しむエンジョイ型。３つ目は、平日のみ活動し、従来の文化部をアップデートした創造的な活動を行う探求型。４つ目は、 地域のスポーツクラブ等で既に活動している生徒が対象となる地域直結型である。
・チャレンジ型の生徒が活動できる環境整備として、市内を４つのブロックに分け、休日はそのエリアの生徒が集まって合同練習を行う。中体連などの大会への出場について、単独でチームを組める種目については、当面、これまで通り学校ごとに出場することも認めていく。
・伊勢崎市地域展開構想イメージ図について、４つのブロックは、「第三中、殖蓮中、宮郷中、四ツ葉学園の伊勢崎北部スポーツクラブ」、「第一中、第二中、第四中の伊勢崎南部スポーツクラブ」、「境北中、西中、南中の境スポーツクラブ」、「赤堀中・あずま中の赤堀あずまスポーツクラブ」である。活動場所は学校施設が中心となりますが、将来的には、市のスポーツ施設や大学施設も活動場所に加えられるとよいと考えている。指導者については、伊勢崎市の人材リストに登録された指導者や兼職兼業の申請を行った意欲ある教員などを配置し、関係機関と連携しながら持続可能な体制を整えていく。
・この構想を現実のものとするため、具体的で実効性の高いアンケート調査を実施する。併せて、保護者や生徒に対して、部活動動がなぜ、どう、いつ変わるのかを分かりやすくまとめたリーフレットを配布するなど、丁寧な情報発信を行っていく。
・このあと、委員の皆様には次の２つのポイントを中心にご協議いただきたい。１つ目は、４つのコース分けが、生徒や保護者にとって分かりやすく、実効性のある仕組みになっているか、あるいは運用上の懸念点がないかについてご意見を伺いたい。２つ目は、４ブロック制地域クラブ、地域展開構想イメージ図について、この地域展開の枠組みや拠

点施設の配置、指導者の確保・運用体制について、実現可能性や改善点についてご協議いただきたい。

（委員）

・各ブロックの中に、「チャレンジ型」「エンジョイ型」と複数の型（スタンス）が共存するという捉えでよいのか。普段は「チャレンジ型」も「エンジョイ型」も一緒に活動するのか。

（事務局）

・平日は同じで、土日については各型に変わる（分かれる）と考えている。

（委員）

・平日と土日の違いがあり過ぎてしまうのではないか。

（委員）

・学校とすると、現在はチャレンジ型の要素が強い。複数の型が共存するとなると、学校の捉えも難しい。同じ部活動動の中に、２つのグループがあるということになる。

（委員）

・将来的に平日の部活動動がなくなるのか。

（委員）

・現状では、全くなくなるというわけではない。

（委員）

・平日はみんなエンジョイ型で、土日はチャレンジ型という捉えでよいか。
・あまり違いが出ないようなやり方を探っていきたい。

（事務局）

・全国的なアンケート結果を見ると、３０％程度の生徒は土日もやりたいと思っている。
・土日については教職員の意向も重要であるが、これからの時代は厳しいだろう。
・体制を強化しながら、できることを探っていきたい。

（委員）

・各スポーツクラブの中に、現在存在するスポーツクラブが入っていくことになるのか。そして、認定スポーツクラブとなっていくのか。

（事務局）

・そうなっていくことを見越している。

（委員）

・必ず４つのコースのどこかを選ぶということにしていくのか。何も選ばないという選択でもよいのか。

（事務局）

・まだ細かい部分まで合意形成はできていない。個人としては「選ばない」選択もありだと思う。現在も消極的な選択をしている生徒もいるだろう。

（委員）

・チャレンジ型は中体連の競技種目だけになるのか。

（事務局）

・個人的にはスポーツチャンバラ等、部活動動にない種目に広げていってもよいと思う。スポーツ協会等と協力、調整していけるようにしたい。

（委員）
・子供の「やりたい」という思いを大事にしたいが、教員数と部活動動数のアンバランスさがある。精選はしなければならない。
（委員）
・学校が意思統一できているわけではない。同一の部活動に「チャレンジ型」「エンジョイ型」等が混在するのはいかがなものか。混乱してしまうのでは。
・現在のイメージは運動部だと思うが、吹奏楽部の子供の中にはチャレンジ型を希望する子が多いと思う。
（委員）
・コンクールに向けてはチャレンジ、地域のコンサート等への取組はエンジョイ型となると思う。
・吹奏楽部の各校顧問で協力し、今年、各楽器の専門家から学ぶ機会を設けたところ、子供たちには好評であったようだ。その際に「〇〇（楽器）は◎◎中で」と、各校で分担して開催した。今後は学校の施設を使わせてほしい、金銭面での支援をして欲しいという、要望が上がってくることが想定される。
（委員）
・四ツ葉が北部ブロックに入っているのはどうなのかと思う。四ツ葉は市外からも通っている生徒がおり、移動は大変、負担も大きいのではないか。
・境地区も今後の生徒数を考えると心配。
・一方、部活動がないと親も困るし、生活が心配。これまでは夏休み中に部活動に行っていたが、今は家で、ゲームをしているか、YouTube ばかり。不健康である。
・消極的な意見となってしまうが、少しずつでも部活動に入れていかないと成り立たないのではないか。
（委員）
・親に「チャレンジ型」「エンジョイ型」を説明するとしたらどう捉えるか。
（委員）
・「平日はエンジョイ」「休日はチャレンジ」であれば受け入れやすいのでは。
・共存は難しいのではと思う。
（委員）
・部活動を愛好会（サークル）と分けて存在させるのは難しいのか。
（事務局）
・そうした部分についても考えていかないといけない。
（委員）
・チャレンジ型でやっても、現在は最後の大会が夏休み前に終わってしまう。その後に続けてできないというのはもったいないのでは。
（委員）
・確認だが、チャレンジとエンジョイの共存は難しいと思うが、高校の部活動動の流れのように、〇〇ブロックは強豪を目指す（チャレンジ）、◎◎ブロックはエンジョイを目指すというやり方はどうか。

（委員）
・今のままでは子供たちの分断を生みかねないか懸念がある。
・一方で、このように提示していただいたことで現実性が出てきた。
（委員）
・何かを示さなければならない中で、今回のような提示は絶対に必要だと思う。先程挙げられた懸念については、流動性があれば大丈夫かと捉えている。
・教員の中には休日も指導したいという人もいる。ただ、勤務時間の管理は難しい。他市町村では、部活動指導によって延びた勤務時間を長期休業中に調整しているようなところがあると聞いたことがあるが、そうした対応ができるのか。
・総合的スポーツクラブとして、地域としてのつながりや縦の関係が築いていけたらよいと思っている。
（事務局）
・今後、中体連はどのようになっていくのか。すり合わせをしていかなくてはならない。
（委員）
・群馬県中体連の動きを注視していかなければならない。
・群馬県も国の動向をよくチェックしている。その流れに沿っていくことは必須である。
・現在、県中体連陸上競技部の部長を務めているが、陸上は大会を運営するにあたって教員だけではまず回らない。様々な方に協力を仰いでいる現状がある。
（委員）
・連絡や集約等、事務手続きについては、クラブが増えてくることで大変になると思う。どのように運営していくのかが肝心になってくる。
（委員）
・教職員の考えは様々。その中で多くの先生方のイメージは「地域展開＝地域直結」と捉えている。
・「顧問はできない」と申し出る教職員も年々多くなっているように感じている。
（委員）
・「地域展開事業主体」が未定となっているが、未定の部分を決めていかないといけない。「検討」ではなく、「実行」を。他の関係部署と連携し、「実行部会」を設立していく時期ではないか。
・「失敗してもよい、もう走ろうよ」という感じでやっていく必要がある。
（委員）
・合同チームを進めていければいいのではと思っている。吹奏楽部はパートがあるので、チャレンジとエンジョイの混在は難しい。
（事務局）
・まだまだ課題は多いが、たくさんのご意見をいただいてありがたい。
・続いてアンケートについて、９月中には実施していきたい。対象は中学１、２年生の生徒とその保護者、中学校の教職員。小学生及びその保護者は対象としない。
（委員）
・「誰が運営していくのか」、前提条件についてはもう少し示した方がよいのではないか。

（委員）

・以前に作成したリーフレットを添えられるとよいと思うがいかがか。

（教育長）

・今回示した構想に対して、疑問点や意見を出していただきありがたかった。制度設計をもう一度整えていきたい。

・「○○スポーツクラブでは、◎◎（競技名）を行う」と、明記できるようにしていきたい。

6　諸連絡

（事務局）

・第２回伊勢崎市部活動地域展開検討委員会を１１月中旬に開催を予定している。

7　閉会